



和'S YAMATO (わずやまと) 秋号 2017



- 2017年NHK大河ドラマ
一特集「おんな城主直虎」—
- ◎井伊家の再興願い、直政が家康に出仕
 - ◎井伊直政と松下氏
 - ◎直政ゆかりの古社寺めぐり
 - ◎直政の初陣と武功
 - ◎直虎ゆかりの地 浜松の観光スポット
 - ◎—お客様紹介—
 - さいとう製菓(株)中井第三工場 様
 - ◎前橋の臨江閣がリニューアル

「讚」F6
須藤和之 画
黄金色に色づく秋のヤマトビオトープ園

臨江閣がリニューアル



臨江閣別館の外観

臨江閣(前橋市大手町)の別館のリニューアルが完了し、平成二十九年八月十九日(土)にオープニング式典があり、正門の門扉の除幕式が行われました。また、臨江閣開館記念として、記念講演会「臨江閣の建築」や記念コンサート、日本舞踊などの催しがあり、リニューアル開館を祝いました。平成二十九年九月からは各部屋を一般に貸し出し、ケータリングを利用した飲食も可能で、結婚式文化イベントなどに使用できます。観覧のみは無料です。また、平成二十九年十一月四日(土)、五日(日)には、将棋界の最高位タイトル戦竜王戦の七番勝負第3局が開催され、注目を集めています。



臨江閣正門の門扉をデザインした造形作家の今井由佳さん

門扉のデザインは、鶴舞う形の群馬県にちなみ、県都前橋のさらなる飛躍と発展を願い、2羽の鶴が悠々と舞っている姿がモチーフとなっています。



門扉の全景

臨江閣は近代和風の木造建築で、全体は本館別館茶室から成り、本館と茶室は県指定、別館は市指定の重要文化財。本館は明治十七年(一八八四)九月、当時の群馬県令植取素彦(かとりもとひこ)や市内の有志らの協力と募金により迎賓館として建てられ、茶室は同年十一月に京都の宮大工今井源兵衛による草庵茶室として完成。別館は書院風建築で、明治四十三年に府十四県連合共進会の貴賓館として建てられました。



臨江閣とは



正門門扉の除幕式。前橋ロータリークラブが創立60周年記念事業で寄贈しました。

和'S YAMATO (わずやまと) 秋号 (第34号) 2017

『和's YAMATO』の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。

和'S YAMATO 2017 秋号 / 2017年9月発行
発行：株式会社ヤマト(広報室) 群馬県前橋市古市町118
TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896
支店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所／軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀
附属施設／大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/



おんな城主 直虎

2017年のNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」は、徳川四天王の一人として徳川家康を支えた井伊直政の養母といわれる井伊直虎が主人公である。戦国時代、井伊家の存続を図るために「おんな城主」になった直虎の姿をドラマティックに描いている。

井伊家の再興願い、直政が家康に出仕

永禄十二年（一五六九）、徳川家康は掛川城に潜んでいる今川氏真を攻め、今川家が支配していた遠江に侵攻、浜名湖畔の堀川城など、主要な城を落とした。同年五月、掛川城も開城させ、大名としての今川家は滅び、家康の遠江平定は完了した。井伊谷は徳川の支配下となったものの、織田・徳川軍は武田信玄と対立しており、元龜二年（一五七二）には武田軍が遠江に侵攻、井伊谷は武田軍に焼き討ちにされてしまふ。

元龜三年（一五七二）、三方が原の戦いで徳川家康は武田信玄に完敗し、信玄は翌年の一月、ついに三河に侵攻、しかし、四月に信玄が病

死し武田軍は甲府に撤退、徳川軍は本拠地・三河での対決を回避できた。徳川と同盟を結んでいた井伊家もまた、窮地を脱することができたのである。虎松は今川の追っ手から逃れるため山間部の鳳来寺に身を潜めていたが、天正二年（一五七四）、武田軍が井伊谷から撤退し、徳川軍が勢力を拡大したのを機に、井伊直親の十三回忌に参列するため、井伊谷に帰還した。

直虎は虎松を家康に出仕させる機会を探っていた。「井伊家伝記」には、龍潭寺の南溪和尚と三人の女たちが話し合ったと記されている。三人の女とは、直虎と虎松

の実母（松下家に再嫁）、直虎の母の祐椿尼である。虎松を、名実ともに遠江の支配者となった家康に仕

えさせる計画だった。翌年の天正三年二月、虎松は十五歳の時に松下家の養子として、浜松城外で鷹狩をしていた家康に目通りを許された。家臣に取り立てられることになった。その後、小姓として家康の身辺に仕え、三百石が与えられるのである。またこの時、井伊姓を名乗ることも許され、家康の幼名であった竹千代にちなみ、井伊万千代と改名する。こうして虎松は家康のもとで井伊氏復活へと歩みだした。

万千代は天正四年（一五七八）、家康に近侍して一年がたち、初陣の時を迎えた。そしてその直後、初手柄をあげる。この頃は武田勝頼との攻防が激しく、家康は芝原の陣で休憩していた。その休憩所に武田の忍者が真夜中に忍び込み、家康の寝首を掻こうとしたのを、不寝番をしていた万千代が気づき、一人で賊を討ち取ったのである。主の危機を食い止めた功績により、万千代は三百石から十倍の三千石に加増さ

れ、それとともに徳川の支配下にあった井伊谷の領有が認められた。

万千代は初陣を飾ったのち、天正六年（一五七八）三月、田中城攻めで格別の働きをして一万石に加増。天正九年には高天神城の戦いで、直政が城に籠る城兵の生命線ともいえる水の補給路を断ち、徳川軍を勝利に導く。この大手柄を足掛かりに、直政は徳川家臣団での有力武将としての地位を着実に築き上げていく。

天正十年（一五八二）、家康は武田勝頼を滅ぼし、本能寺の変で信長が没したため、北条氏と和睦、甲斐の武田旧臣を取り込み、二十二歳の万千代を元服させて武田の遺臣を配属した。元服し、井伊兵部少輔直政と名乗り、鎧兜を赤で統一する「井伊の赤備え」を編成し、名実ともに侍大将となった。

しかし、直政を見守り続けた直虎は、直政の元服姿を見ることなく、天正十年にこの世を去った。直虎は井伊家代々の墓所がある龍潭寺に葬られ、元許嫁で結ばれることのなかった井伊直親の隣で眠っている。



井伊直虎像（方広寺：画像展示）



井伊直政像（方広寺：画像展示）

龍潭寺

ryōtani

井伊直政公出生の地

所在地：浜松市北区引佐町井伊谷1989



妙雲寺

myōunji

直虎の位牌



直虎の菩提寺で、寺号は直虎の法名妙雲院殿にちなんでいる。妙雲寺は、桶狭間の戦いで戦死した直虎の父直盛を弔うために永禄四年（一五六二）に建立された。直虎の位牌は龍潭寺にあるが、妙雲寺で平成二十七年（二〇一五）十月に発見され、直虎の位牌とともに、南溪和尚の位牌も昨年月末に見つかったという。
所在地：浜松市北区神宮寺町213



ジオラマ

作品名：出会い

浜松出世の館で展示中

天正三年（一五七五）二月、松下虎松（のちの井伊直政）が十五歳の時、徳川家康に初めて出会った際の場面を描いたジオラマ。直虎は、井伊家再興のため、虎松を浜松城下に送り、継父松下源太郎の屋敷に住ませ、家康に仕える機会を探っていた。虎松に美しい小袖を着せ、鷹狩に出た家康に引き合わせる事ができた。

このジオラマでは、直虎が物陰から見守る中、虎松が家康から声をかけられる情景となっている。家康が虎松を見つけたときの感想として、「路傍において二童子を見たまふ。その容貌、端麗にして英雄の相あり」と記録されている。家康は虎松を浜松城に連れ帰り、井伊直親の実子と聞いて、「松下ではなく姓を井伊とせよ。わしの幼名竹千代にちなんで、井伊万千代と名乗れ。小姓にすると、即座に領地三百石と武士の礼服である袴を与えたという（井伊家伝記）。領地はほどなく井伊谷三千石に加増され、井伊家は再興された。



直政と家康の出会いを描いたジオラマ

（ジオラマの解説文を参考に作成）

井伊直政と松下氏

松下氏は徳川家に厚遇される

虎松(後の直政)の実母は、浜松を本拠とする松下清景と再婚し、清景は直政の養父となる。松下氏は浜松城の東に位置する頭陀寺という土地の武士で、今川家の家臣だったが、徳川家康が浜松城(引間城)を攻略すると、一族をあげて家康に臣従した。井伊直政は徳川家四天王となるほどの出世を遂げ、天正十八年(一五九〇)、直政が箕輪城の城主となると、清景は井伊家の家老となり、城内の稻荷曲輪に居住した。

「おんな城主直虎」に山伏として登場する松下常慶は、松下清景の弟で、修験者として秋葉神社の火用心のお札を売りながら、諸国を出入り自由に行き来し、軍事情報などを集めていた。三河の家康にも遠江の情報を読み、その働きが高く評価される。常慶の子孫は「火付盗賊改め」を務め、徳川幕府からの厚い信用を得ていく。

秀吉は松下氏の計らいで大成する

松下清景・常慶の義弟にあたる松下之綱(加兵衛)とその父松下長則は、頭陀寺城の城主だった。天文二十一年(一五三三)から約三年間、木下藤吉郎(豊臣秀吉)は松下家に奉公していた。当時、十五歳ほどの秀吉は、松下家で才覚を発揮したため、長則はその将来を見込んで織田信長に奉公することを勧めたといわれる。秀吉は信長に仕え、歴史に残る大出世を遂げる。その糸口は松下氏の計らいであったことから、後年、秀吉はその大恩に報いるため、之綱を遠江久野藩主一万六千石の大名に取り立てている。

高野山真言宗 難除大師頭陀寺

(こうのさんしんごうなんよけいじ) zudaji



大正二年(一九一三)文政天皇が圓空上人に下命し、勸願寺となる。

頭陀寺の松下稲荷堂



松下稲荷堂を箕輪城内に勧請したといわれている。

少年期の像 左から秀吉、家康、直政



頭陀寺敷地内にある秀吉、家康、直政の少年期の像。頭陀寺は三人の成長期に関わりがあり、「養育の里」として慕われている。

秋葉山本宮秋葉神社

浜松市天竜区の秋葉山にある神社。火伏せの神である火之迦具土神を祀る。日本全国に存在する秋葉神社の起源となった神社で、現在でも全国各地から消防調理師などの火を扱う仕事の関係者が多く参拝する。明治時代の東京では、火事の延焼を避けるため火除地とされた場所に秋葉神社が勧請されたことから、秋葉原の地名になったといわれている。



箕輪城まつり奉賛会会長
エスビック株式会社代表取締役社長

柳澤佳雄氏

柳澤佳雄氏は箕輪城まつり奉賛会会長として、長年にわたり地域の歴史を研究されています。本稿は、柳澤佳雄氏に井伊直政と松下氏、箕輪城の関わりについてのお話を伺い、貴重な資料をご提供いただき原稿を作成しました。次号で、直政と箕輪城について詳しく紹介します。

柳澤佳雄氏が手にしているのは、秀吉、家康、直政にゆかりのある頭陀寺の出世成就の絵馬です。



写真は柳澤佳雄氏所有の伊達家菩提寺瑞巖寺のお札。瑞巖寺の言い伝えによれば、政宗が防火の神様として知られる浜松の秋葉神社に家人を派遣し、取り寄せたという。瑞巖寺は創建から約400年間、ぼや程度の火事だけで、建物の焼失は皆無とのこと。



松下屋敷跡

matsudayashiko



松下屋敷は松下氏が居を構えた場所で別名「頭陀寺城」と呼ばれている。

片葉の葦由来の地



秀吉が松下氏に奉公していた際、寺の北東にある大きな池で鎌を研ぎ、その切れ味を試そうと葦の片葉はかり切ったため、池には片葉の葦が生えるようになったという。

鎌研池



直政ゆかりの古社寺めぐり

奥三河

鳳来寺

国指定名勝・天然記念物にも指定されている鳳来寺山(ほうらいじさん)は、約二千万年前の火山活動で噴出した標高695mの死火山で、古くから山岳修験道の霊山となっていました。鳳来寺は大宝二年(七〇二)に利修仙人による開山と伝わり、鎌倉時代には源頼朝が再興したといわれています。平治の乱で敗れた源頼朝の父・源義朝は尾張で殺害され、同時期に源頼朝は鳳来寺に落ち延びたとされます。

幼少の井伊直政は、永禄十一年(一五六八)に今川家から命を狙われ、鳳来寺に逃れ、8歳から14歳までを過ごし、寺の僧侶たちによって武将としての備えるべき教養を身に付けました。

徳川家康の生母・於大の方が鳳来寺を参拝すると、竹千代(徳川家康)を宿したことから、江戸時代には徳川家から厚く庇護を受けました。三代將軍・徳川家光は、鳳来寺の伽藍を改修しただけでなく、徳川家康を祀る「鳳来寺山東照宮」も建立させ、慶安四年(一六五二)に完成しました。社殿は豪華・壮麗な造りで、日光東照宮・久能山東照宮とともに、日本三東照宮と称されています。

鳳来寺

所在地・愛知県新城市門谷字鳳来寺1

パークウェイ駐車場(山頂駐車場)から鳳来寺と鳳来東照宮を見学・参詣する所要時間は約1時間ほどです。

鳳来寺

hourai-ji
(ほうらいじ)



東照宮拝殿



東照宮遙拝所



鳳来山東照宮からの眺め



臨済宗方広寺派大本山

方広寺

方広寺は禅宗の臨済宗方広寺派を構成し、末寺百七十寺を擁する大本山として厚い信仰を集めています。建徳二年(一三七二)、井伊家の一族・奥山氏が、後醍醐天皇の皇子である無文元選禪師(むもんげんせんぜんじ)を開山と仰ぎ建立しました。無文元選禪師が中国からの帰路、異人の禪師に助けられ、その異人が後に方広寺の鎮守の神の半蔵坊となりました。この奥山半僧坊大権現(おくやまはんそうぼうだいこんげん)信仰も全国に広がっています。

井伊直政の実母・奥山因幡守朝利の息女・本名は定かではないが地元では『おひよ』と呼ばれ、大河ドラマでは『し』として登場の出身である奥山家ゆかりの寺です。



方広寺ゆかりの奥山家出身直政の母

方広寺

所在地・静岡県浜松市北区引佐町奥山1577-1

方広寺

houkoku-ji
(ほうくokuji)



三重塔



奥山半僧坊大権現

おくやまはんそうぼうだいこんげん



三重の塔

五代前の管長間宮老師の時代に、京都の篤志家である山口玄洞氏が寄付して建立された塔。山口氏は大阪でラシャ問屋を営み第一次大戦中に財をなしたが、間宮老師の忠告で好景気のうちに商売を手控えたことにより、停戦とともに事業者の倒産が相次ぐ中で山口氏は難を免れ、その後も社業は発展したということです。そうした故事からこの塔は「倒産除けの塔」として全国から財界人が参拝に訪れています。

直政の初陣

遠江 芝原の戦い

天正四年（一五七六）二月、家康は武田勝頼と遠州 芝原（静岡県袋井市山崎）で戦い、直政はこの戦いで初陣を飾る。この戦いは前年の長篠の戦いで敗れた武田勝頼が、劣勢を挽回しようとしたためか、二万の軍勢で遠江の二俣、袋井に侵攻した。家康は八千の軍で横須賀城（静岡県掛川市西大淵）に布陣し、続いて芝原へ陣を移して勝頼軍と対峙した。この戦いで大規模な野戦は無く、直政は家康の本陣に参陣していたとされる。



横須賀城址 玉石垣の天守台

初陣を飾った芝原の陣では、直政の武勇を後世に伝える記録が残っている。「井伊年譜」によれば、勝頼の刺客が家康の寝首を狙ったが、それを直政が討ち取ったという。また、「井伊伝記」では、本陣に潜入しようとした武田の忍者を討ち取るという武功をあげたとされている。芝原の陣の後、勝頼との戦いは続き、直政は天正七年（一五七九）の勝頼軍との高天神城をめぐる戦いでも、敵陣一番乗りを果たしたといわれている。

長篠の戦い

直政が仕える徳川家が台頭する契機

武田信玄は「風林火山」の旗をたて、甲州から近隣の国々を従えながら勢力を拡げており、元龜二年（一五七二）に長篠城主菅沼正貞が信玄に降伏した。翌年十月、信玄は京を目指して甲州を出発した。遠州一俣城を取り、三方ヶ原で家康を破り、三河野田城を攻め落とした。しかし、信玄はこの野田で病氣となり、京に上るのを断念、長篠城や鳳来寺、田口の福田寺等で休養しつつ故国甲府を目指したが、信州駒場で死去した。

信玄の死後、家康は長篠城を占拠し、勝頼はその奪還を目指した。天正二年（一五七五）に遠州高天神城の攻略に成功して自信を深め、天正三年五月、勝頼は一万五千の大軍で長篠城を囲み、攻めかかった。しかし城は落ちず、兵糧攻めに切り替え、城を包囲し降伏するのを待った。

城内にいた鳥居強衛門（とりいすねえもん）は城からの脱出に成功、岡崎城に赴き、家康と信長に城の様子を伝え援軍を頼んだ。援軍が来ることを知らせるために城に戻ろうとした強衛門は武田軍に捕えられ、武田本陣で「援軍は来ない、早く開城せよ」と叫べば助命し恩賞を与えると誘われ、承諾の態度をとり城の近くに立ちそこで「援軍は近くまで来ている、安心して城を守れ」と叫んだ。強衛門は武田軍に磔の刑にされるが、城内では援軍を待ち、開城を踏みとどまった。

織田・徳川連合軍三万八千は三千丁の鉄砲を準備し、天正三年（一五七六）五月十八日に設楽原に到着し、城周辺に三重の馬防ぎの柵と堀、土塁を構築した。勝頼軍は軍議を開き、老臣からは決戦を避けるよう進言があったものの、勝頼はそれを入れずに設楽原に進出した。家康の重臣、酒井忠次は五月二十一日の夜明けに鷲が巣山の武田軍の砦を急襲し戦鬨の火蓋が切れ、不敗を誇る武田軍は、騎馬戦術をもつて設楽原に突き進んで行く。織田・徳川連合軍は武田軍を馬防ぎの柵際に引き寄せ、三千丁の火縄銃を代わる代わる発射し、当初は優勢だった武田軍は信長の新戦術の

前に諸将は相次いで倒れ、勝頼は信州へと逃れたのだった。わずか十時間の戦いで武田軍万人、織田・徳川連合軍五千人が死亡する壮絶な戦いとなった。
天文十二（一五四三）年、わが国（種子島）に初めて鉄砲が伝わり、それ以後製銃、火薬製造の技術が急速に発達したが、弾丸を筒先で込める仕掛けだったので、発射までに三分の時間がかった。信長は鉄砲を新兵器として位置付けた戦術を編み出し、千丁ずつ交互に発射させ、弾丸込めの時間のすれをなくした。



長篠城址史跡保存館

長篠城址史跡保存館

所在地・愛知県新城市長篠字市場22-1
TEL 0536-32-0162



鳥居強衛門処刑の図 ▲



馬防柵の複製

徳川四天王への第一歩

直政の武功

高天神城の戦い

高天神城は今川氏が築城した後、徳川家康が支配しており、二つの山頂を利用し、本丸と西の丸があり、急峻な崖が周囲を覆い、大軍が攻め込みにくい城だった。天正二年（一五七四）には武田勝頼が約二万の大軍で城を包囲、徳川方の籠城兵は約一千で、勝頼軍の攻撃で開城し、武田軍が支配した。

天正三年（一五七五）、勝頼は長篠の戦いで織田・徳川軍に敗れ、徳川が遠州での武田の領地を次々に奪還したものの、堅城の高天神城は容易に攻略できなかった。家康は持久戦を覚悟し、城を攻撃するための砦を築いた。

天正九年（一五八二）には井伊直政が城内への水の補給路を絶って籠城ができないようにし、城内では援軍の到着を待っていたが、勝頼は北条氏との戦いがあり援軍を差し向けられなかったために落城、勝頼への信頼が低下する事態を招いたという。翌年の天正十年に戦国大名としての武田家は滅亡した。



武田勝頼像 ▲



高天神城想像図



追手門跡



本丸跡



高天神城跡の碑
(静岡県掛川市)



搦め手門跡
(城の裏門)



かな井戸跡



着到櫓跡

武田方が攻めて来たとき鐘を鳴らして知らせた櫓

今川家

氏真の祖母
寿桂尼
浅丘ルリ子

今川家当主
今川氏真
尾上松也

氏真の正室
春(早川殿)
西原亜希

今川家家臣
関口氏経
矢島健一

織田家

織田家当主
織田信長
市川海老蔵

目付衆

井伊家三人衆
菅沼忠久
阪田マサノブ

井伊家三人衆
近藤康用
橋本じゅん

井伊家三人衆
鈴木重時
菅原大吉

堀江城城主
大沢基胤
嶋田久作

山伏
松下常慶
和田正人

松平家

松平家当主
松平元康
(徳川家康)
阿部サダヲ

元康(家康)の正室
瀬名
菜々緒

松平家家臣
石川数正
中村織央

松平家家臣
酒井忠次
みのすけ

龍潭寺

菩薩寺の住職
南溪和尚
小林薫

菩薩寺の僧侶
傑山
市原隼人

菩薩寺の僧侶
昊天
小松和重

おんな城主直虎
人物関係図

血縁関係
夫婦関係
その他

井伊直虎
柴咲コウ

直虎の父
井伊直盛
杉本哲太

直虎の母
祐椿尼
財前直見

元許嫁

後見

興味

幼馴染

井伊家筆頭家老
小野但馬守政次
高橋一生

盗賊団・龍雲党の頭
龍雲丸
柳楽優弥

気賀の人々

気賀の商人
伊勢屋
松尾貴史

気賀の商人・中村屋の主
中村与太夫
本田博太郎

井伊の領民たち

瀬戸村の長
甚兵衛
山本學

瀬戸村の百姓
八助
山中崇

祝田村の百姓
福蔵
木下隆行

鍛冶職人
五平
おかやまはじめ

祝田村の百姓
富介
木本武宏

祝田村の
神社の禰宜
ダンカン

瀬戸村の百姓
角太郎
前原滉

直虎・直政関連略年表

室町時代

天文13年(1544)	井伊家当主・直宗の弟、直満と直義が、家老小野和泉守道高のざん言により、駿府で今川義元に誅殺される。直満の子・亀之丞(9歳)も命を狙われ、信州に身を隠す。
天文18年(1549)	松平竹千代(徳川家康)、駿府へ人質として入る。
弘治元年(1555)	信州より亀之丞(20歳)帰国。井伊直盛の養子となり井伊直親と名乗る。
永禄3年(1560)	桶狭間の戦い。井伊直盛、今川義元に従い出陣。桶狭間にて織田信長と戦い義元と共に討死。直親(25歳)が井伊家当主を継ぐ。
永禄4年(1561)	虎松(井伊直政)誕生。
永禄5年(1562)	井伊直親(27歳)、家老小野政次のざん言により今川氏真の呼び出しを受け、駿府に申し開きに行く道中、今川家臣に攻められ討死。
永禄8年(1565)	井伊直盛の娘・次郎法師、「直虎」と名乗り地頭職につき、虎松(4歳)の後見人となる。
永禄11年(1568)	今川氏真が井伊領に出した徳政令を実行する。これにより直虎の地頭職は廃止され、家老小野但馬守が井伊領を支配。直後に徳川家康が遠江に侵入し、井伊谷城を接収する。虎松は三河鳳来寺に逃れる。
永禄12年(1569)	今川氏滅亡。小野但馬守は井伊谷から逃亡するが、捕らえられて処刑される。
元亀3年(1572)	三方ヶ原の戦いで徳川家康が武田信玄に大敗する。
元亀4年(1573)	足利幕府崩壊。井伊谷は武田軍により焼き払われる。武田信玄病死。

戦国時代

天正3年(1575)	虎松(15歳)、徳川家康に士官を認められ、万千代と名を改める。長篠の戦い。
天正10年(1582)	本能寺の変で、織田信長、明智光秀に討たれる。直虎逝去。万千代、元服し井伊直政を名乗る。
天正12年(1584)	小牧・長久手の戦い。直政、武功を上げ六万石に加増。諸大名から「井伊の赤鬼」と恐れられる。
天正18年(1590)	小田原の陣。直政、上野国(こうすけのくに)12万石を与えられ、箕輪(みのわ)城の城主となる。
慶長5年(1600)	関ヶ原の戦い
慶長7年(1602)	直政、関ヶ原の戦いの傷がもとで死没。

直虎ゆかりの地 浜松の観光スポット

浜松で自動車産業の発展を学ぶ

スズキ歴史館

日本初の軽自動車

スズキは、明治四十二年（一九〇九）に創業、大正九年（一九二〇）に織機メーカーとして設立して以来、「価値ある製品を」のごとばのもとに、つねにお客さまの立場に立ったものづくりに情熱を注いできました。現在では、国内主力自動車メーカーとして、二輪車、四輪車、船外機などさまざまな製品を国内ほか世界各国で生産・販売しています。

スズキ歴史館には、時代とともに歩んできた創業以来の多くの製品と現在のクルマづくりの様子が展示されています。昭和の香りを伝える名車の展示をはじめ、日本が誇る自動車製造技術の高さが分かりやすく解説されています。アトラクション感覚で見たり、触ったりできる展示もあり、大人から子どもまで楽しめるスポットです。



スズキ歴史館では展示場が大きく2つに分かれています。最先端の車両製造、開発を解説する2階展示場と、スズキの歴史を分かりやすく展示、解説した3F展示場があります。また、2階には、浜松地域（遠州）の歴史や特産物などもわかりやすく紹介したコーナーがあります。



スズキ株式会社は、もともとは織機（織物を製造する機械）メーカーとして設立された歴史があります。3階では、当時の織機も稼働状態で保存しています。この製造機械の技術レベルの高さが「価値ある製品」を生み出し、これが現在の車造りにも反映され世界的に高い評価を受ける原点になっています。



1階はインフォメーション実車にまたがって記念撮影ができるコーナーがあります。



2階には現在のクルマづくりを紹介した生産、開発ゾーン、遠州地方の紹介コーナーがあります。



3階の展示ブースはスズキのものづくりの歴史です。スズキの最初の生産車スズライトをはじめ、オートバイ、アルトやスイフトなどの車両を展示しています。

所在地 静岡県浜松市南区増楽町1301

お問い合わせ 電話番号 053-440-2020 **開館時間** 9時～16時30分（予約制）

休館日 月曜日、年末年始、夏季休暇等 **入館料** 無料

本田宗一郎ものづくり伝承館

日本初の国産オートバイ

本田宗一郎氏は浜松の出身で、一代で町工場から世界的な企業「ホンダ」をつくり上げ、ものづくりの日本の礎を築いた伝説のエンジニア。本田宗一郎ものづくり伝承館は、本田氏の故郷に平成二十二年（二〇一〇）にオープンし、氏の業績を広く伝えると共に、人間「本田宗一郎」の人となりや、ものづくり精神を紹介する資料館です。建物は国の登録有形文化財である旧二股町役場を改装されたもので、重厚さと気品が感じられる歴史的建造物です。

展示室では、本田氏の軌跡をたどる年譜をはじめ、写真や映像、遺品、初期のバイクなどが展示されています。また、本田氏の「落ちこぼれ」ともいえる少年時代のエピソードも知ることができ、氏の天才性やものづくり精神に触れることができます。



展示室 時代を感じさせるバイクの展示。



本田氏の哲学に触れられる。



資料も充実。

所在地 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣1112

お問い合わせ 電話番号 053-477-4664 FAX 053-477-4664

開館時間 10時～16時30分 **入館料** 無料

休館日 月曜日、火曜日（祝日の場合は開館し水曜日を休館日とする）、12月29日～翌年1月3日まで

日本一を誇る
モチモチ感

浜松のみそまん

浜名湖の北側に位置する峠越えの山道「姫街道」の茶店で出されていたのが「みそまん」です。皮の色が味噌の色に似ていることから「みそまん」と呼ばれ、職人の勘だけを頼りに、極上の柔らかさ、しっとりさ、モチモチ感のあるまんじゅうが作られ、奥浜名湖の地域ブランドとして定着しています。

井伊谷にある和菓子店のすぎや内山製菓のみそまん

さいとう製菓(株)中井第三工場様

岩手県大船渡市

震災を乗り越え新工場が竣工



中井第三工場の外観

東北の銘菓「かもめの玉子」を製造販売する、さいとう製菓株式会社様の中井第三工場が竣工しました。同社は平成二十三年(二〇二一)三月十一日に発生した東日本大震災と大津波の被害を受けながらも事業活動を継続し、かもめの玉子を中心に広く親しまれる銘菓を提供しています。

中井第三工場は、人気商品「ミニかもめの玉子」の増産体制が整い、雇用創出など地域経済の活性化に貢献しています。(株)ヤマトは同工場の空調設備工事を施工しました。大温度差蓄熱空調システムが導入されています。



かもめの玉子

さいとう製菓(株)では、昭和8年(1933)の創業以来、岩手・三陸のすばらしい四季をお菓子で表現し、幸福に満たされるようなお菓子づくりを心がけています。

- 施設概要**
- 施設名称** さいとう製菓(株)中井第三工場
- 所在地** 岩手県大船渡市赤崎町宮野3-1
- 建物概要** S造 地上2階建て
- 建築面積** 2,814㎡
- 延床面積** 3,207㎡
- 設計監理** (有)池田菅野建築設計事務所
- システム概要**
- 空調熱源** 高効率大温度差蓄熱空調システム
- 空調機** 空冷ヒートポンプチャージ50HP×4台
- 蓄熱槽** 水蓄熱槽(温度成層型)6000㎡
- 給湯熱源** 大温度差型手回ハンドリングユニット/ファンコイルユニット 立方メートル・バクテリアエアコン
- 給湯熱源** ハイブリッド給湯システム
- 遠隔監視** エコキュート20HP×2台+貯湯槽10㎡
- 省エネチューニング** 真空ヒーター186kW(灯油焚)×1台



新工場の内部



エントランスのステンドグラス



新工場の内部

さいとう製菓 新工場竣工記念

「輝く星」ミュージカルショーを開催

さいとう製菓(株)の新工場竣工を記念して、ミュージカルショー「輝く星」が平成二十九年(二〇一七)六月四日(日)に大船渡市民文化会館リクスホールで開催されました。さいとう製菓(株)取締役会長の齊藤俊明氏が挨拶し、来場者の方々と新工場の竣工をお祝いしました。



挨拶する齊藤会長



ミュージカルショー「輝く星」



会場ロビーに飾られたお祝いの花々



オープニングの長安寺太鼓

お客様の声



武田常務取締役

さいとう製菓株式会社 武田常務取締役
当社も創業八十四年を迎え、お客様で新三工場が完成いたしました。この工場は、バリエーション豊富なミニ玉子製造ラインとして稼働しており、長年の夢でもあった増産体制が確立され、ある程度状況にも対応できると確信しております。また、二階には、品質管理通路が設けられ、多くのお客様に製造工程が見られるように工夫してあります。

特に、(株)ヤマト様の大温度差蓄熱空調システムを導入していただき、ランニングコストの低減と省エネが魅力であり、尚且つ作業環境が良くなり感謝しております。

今後のお客様に喜ばれる商品作りを目指して頑張る所存です。

池田菅野建築設計事務所代表取締役 池田義弘様



池田義弘様

ヤマトさんから提案された大温度差蓄熱空調システムの省エネ性については、平成二十三年十二月に導入している医療・介護施設(岩手県大船渡市)、平成二十六年(二〇一四)四月に開設した福祉施設(岩手県大船渡市)等で効果が実感でき、今回の設計に際しても採り入れました。室内環境の快適性を保ちながら、省エネ、ランニングコスト低減、環境負荷低減を計画しています。食品工場に求められる地球環境負荷低減の要請に十分対応できるシステムであるため、長年にわたって計画通りの省エネ効果を発揮していくことを期待しております。



屋上の空調機器